



ザ・バルモラル「The Balmoral」はスコットランドの首都エジンバラに、100年以上の歴史と伝統を誇るランドマークとして君臨して来た。開業は1902年、エジンバラを拠点とするノースブリティッシュ鉄道が威信をかけたステーションホテルとして、「The North British Station Hotel」の名でオープンさせたのが始まりである



旧市街側から見たザ・バルモラル。エジンバラの象徴とも言える大きな時計台が印象的なホテルで、写真下に見えるエジンバラ中央駅のウェーバリー駅に直結している



エドワード朝様式のファサードを持つザ・バルモラルは1997年にロッコフォルテ卿のRFホテルズの傘下に入り、「Rocco Forte The Balmoral」として現在に至っている



筆者 小原 康裕
ホテルジャーナリスト
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re 入社。85年築地原健樹代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役 CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。
www.jhrca.com/worldhotel
現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。私のファーストアルバム「World's Leading Hotels」はお陰様で好評を頂いておりますが、写真集第2弾「World's Prestige Hotels 世界の名門ホテル」を去年6月に発刊いたしました。独自に取材した世界各地の最高峰ホテルを華麗な写真と共に解説しております。ファーストアルバムに引き続きご愛読して頂ければ幸いです。



正面エントランスにはタータンチェックの伝統衣装「Kilt」を着用したドアマンが立ち、歴史と伝統を受け継ぐ姿勢が快く感じられる



中2階回廊から俯瞰する正面エントランスホール。ホテル外観は重厚な歴史的建築様式を残しつつ、館内はスコットランド流のコンテンポラリーなデザインで調和している



スコットランド流の美しい生花が映える中央エントランスホール



エントランスホール中央に飾られた生花よりコンシェルジュデスクを望む



歴史を感じさせる時計と客室レターボックスを背後に置いたレセプションデスク



磨き上げられた手摺りが印象的な中央ステアケース

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエグゼクティブが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのまま撮ってきた写真を掲載する。

The Balmoral, Edinburgh

ザ・バルモラル「The Balmoral」はスコットランドの首都エジンバラに、100年以上の歴史と伝統を誇るランドマークとして君臨して来た。開業は1902年、エジンバラを拠点とするノースブリティッシュ鉄道が威信をかけたステーションホテルとして、「The North British Station Hotel」の名でオープンさせたのが始まりである。エジンバラの象徴とも言



ファインダイニング「Number One」のエレガントな店内。店名はホテルが立地する「プリンセス・ストリート1番地」に由来し、ミシュラン星を持つエジンバラ屈指のレストランだ



各テーブルの前で、女性スタッフが各種スコットランド産のパンを切り分けていく



アフタヌーンティーが好評の華麗な「Palm Court」。中2階回廊に張り出したボックスからハーブの生演奏がある



メインバー「Scotch」では、伝統衣装のキルトを着用したウイスキー・アンバサダーがスコッチの案内をしてくれる



ブラスリースタイルの伝統的スコットランド料理が楽しめる「Hadrian's」



エジンバラのスコーン宮殿から名を冠したスイート「Scone & Crombie Suite」のベッドルーム。約95㎡の広さを誇るホテルを代表するスイートで、窓から旧市街とエジンバラ城を望む気品ある部屋だ



「Scone & Crombie Suite」のリビングルーム。クラシカルな暖炉と歴史を物語るチェアが印象的だ



端正な佇まいのバスルーム。バスタブは独立しており、底の支えに古典的な猫足が付く



スパ施設「The Balmoral Spa」のレセプション。世界的に展開する英国生まれのESPAが担当している



「The Balmoral Spa」内にある15mの本格的ラッププール

える大きな時計台が印象的なホテルで、中央駅であるウェーバリー駅に直結して利便性も極めて良い。エドワード朝様式のファサードを持つザ・バルモラルは1997年にロッコフォルテ卿のRFホテルズの傘下に入り、「Rocco Forte The Balmoral」として現在に至っている。

エジンバラは街の中心を東西に走る鉄道線路を境に、南に中世の名残をとどめる旧市街、北に18世紀に区画整備された新市街が広がっている。旧市街はスコットランドを代表するエジンバラ城が建ち、城から延びるメイン・ストリート「Royal Mile」周辺には多くの歴史的建物が点在し、中世そのままの街並みが残る。一方、新市街の新古典主義の建物が並ぶ景観は非常に美しく、後のヨーロッパの都市計画に多大の影響を与え、「計画都市の最高傑作」と評された。1995年にはエジンバラの新・旧市街を合わせて街全体が世界遺産に登録されている。

ザ・バルモラルは20室のスイートを含め全188室を擁し、威風堂々とした姿で佇んでいる。ホテル外観は重厚な歴史的建築様式を残しつつ、館内はスコットランド流のコンテンポラリーなデザインで調和している。今回はエジンバラのスコーン宮殿から名を冠したスイート「Scone & Crombie Suite」を紹介したい。約95㎡の広さを誇るホテルを代表するスイートで、窓から旧市街とエジンバラ城を望む気品ある部屋だ。ファインダイニング「Number One」はホテルが立地する「プリンセス・ストリート1番地」に由来し、ミシュラン星を持つエジンバラ屈指のレストランだ。その他、伝統的スコットランド料理の「Hadrian's」、アフタヌーンティーが好評の「Palm Court」、メインバー「Scotch」等どれも評価が高い。スパ施設「The Balmoral Spa」は世界的に展開する英国生まれのESPAが担当している。

ザ・バルモラルは新市街の一等地に建ち、象徴たる時計台は創業以来、市民が列車に乗り遅れないように時計の針は3分速く設定されている。時計台が時間通りに実行される唯一の日は大晦日の12月31日と言われる。正面エントランスにはタータンチェックの伝統衣装「Kilt」を着用したドアマンが立ち、歴史と伝統を受け継ぐ姿勢が早く感じられる。